

広報

No.101

くらみ

昭和56年11月15日

発行・編集 国見町企画課

主な内容

町功労者表彰……………1

あの人この人……………5

—佐藤新二さん—

昭和57年成人者……………6

おしらせ……………7

公民館だより……………8～9



'81

11月

大取穫

11月5日、大木戸小で5～6年生が芋掘り作業。  
17日の焼芋大会が楽しみです。

# 式 彰 表 町 見 国 祝



功 勞 者 の み な さ ん

## 町 発 展 に つ く さ れ た 功 勞 者

# 引 地 さ ん ら に 表 彰 状

菊薫る十一月四日、町民福祉センターで国見町表彰規程に基づき、昭和五十六年度町政功勞者の表彰式が行われました。

これは、政治・経済・産業・文化・社会・その他各般にわたって町の発展に尽された方々を顕彰するもので、今年で十六回を迎えました。

今年度表彰された方々は、農業委員の引地孝さん（五八）をはじめ十三名で、それぞれの要職にあつて、永年になたり町の発展に尽くしてきました。

表彰式は午前十時からセンター大ホールで開かれ受賞者はじめ、佐藤町長、菊地町議会議長、町議會議員、町内関係者六十人が出席して行われました。

奏助役の閉式のことばに続いて佐藤町長が「みなさんは限りなく町の発展に寄与され、明るく豊かな、住みよい町作りに貢献されました。これからも健康に留意され町民の模範としてますますご活躍

ください」と式辞を述べ、町長は一八ひとりに賞状と記念品を手渡し、労をねぎらいました。

来賓祝辞のあと受賞者を代表して、引地孝さんが「このような栄えある賞を受けることができ、たいへん名譽で、ありがとうございます。これからも一層町の発展に努力します」と謝辞を述べて表彰式を終えました。

受賞された方々は次のとおりです。（敬称略）

### 功 勞 表 彰

- ▽引地 孝（農業委員）
  - ▽佐久間政雄（町消防団員）
  - ▽武田文一郎（町消防団員）
  - ▽本間 平次（町消防団員）
  - ▽林 初男（町消防団員）
  - ▽佐久間佐太郎（町消防団員）
  - ▽鶴田 竹男（町消防団員）
  - ▽八島 忠雄（町職員）
  - ▽清水 良男（町職員）
  - ▽山田 久（町職員）
- 善行表彰
- ▽高橋 丑藏（部落会長）
  - ▽鴨田 清作（納税組合長）
  - ▽後藤 清（前納税組合長）

## 読 書 グ ル ー プ

### 「木曜会」に表彰状

読書グループ「木曜会」（内池和子会長）に贈られた表彰状の伝達式が、十月四日午後二時から公民館長室において行われ、関係者の見守るなか郷切町教育長のお祝いと励しのことばのあと、会長に手渡された。

この表彰状は第二十五回読書週間にちなんで、福島県読書推進運動協議会から送られたもので、今までの地味な読書活動を認められたものである。

今後とも息の長い活動を期待したい。



教育長から伝達を受ける代表者

# 佐藤さん、今度は知事表彰

## —統計功労者として—

十月二十日、いわき市で第三十  
一回県統計大会が開かれ、その席  
上、町から六名の統計調査員の所  
が表彰された。その中で佐藤長寿  
さん（西大枝）は県北管内からた  
だ一人統計功労者として知事表彰  
を受けた。三月には八回連続従事  
した国勢調査の優秀調査員として  
総理大臣表彰を受けたばかり。知  
事表彰は町内で鴨田清作さん（内  
谷）に次いで二人めである。今月  
五日には県主催の総理府統計局で  
の研修に参加、今後の活躍が期待  
される。また、県統計協会長表彰

は、安藤良一、大内稔、高梨正広  
八島健一、佐藤俊雄さんの五名が  
受表彰した。いずれも統計従事歴十  
数年のベテラン調査員である。  
行政の多様化とともに統計資料  
の重要度は増す一方だが、それに  
反して統計調査を実施する環境は  
悪化の傾向にある。そのため調査  
員の調査事務能力が統計数値の信  
頼性に大きく寄与することとなり  
調査員の皆さんには一層期待がも  
たれるところである。今後ともよ  
ろしく願いたい。

▲友田副知事から表彰を受ける佐藤さん



新幹線かつ水恒久対策事業の一  
環として、去る七月十日に着工さ  
れた石母田山畑・大沢地内の新溜  
池と大沢溜池の改修工事は、いま、  
堤どう本体工事のあらしを終り、  
最後の仕上げ工事が急ピッチで進め  
られている。

## 完成間近か 石母田溜池 —かつ水対策事業—

この工事は、

昭和四十七年六

月下旬東北新幹

線蔵王トンネル

掘き工事中に、

地下水脈を切断

し石母田竜雲寺

の地下水が完全

に枯かつしたの

をはじめ、大木

戸層畑山・貝田

湧水と減水ある

いはまったく断

水してしまつた

のを補うために、

仙台新幹線工事

局と、町が一体

となり、富士建設請負のもとに施

行しているものです。

この工事が完全に仕上りますと

大沢溜池・新溜池あわせて一万一

千トンの水が貯へられることにな

り、今までの干ばつ時における農

作物の被害は最小限にいとめら

れ、また、非常用水にもことわか

ず、安心して農業ができることに



▶新溜池  
▲大沢溜池



### 言葉遣いの しんぶん



「物は言いよう」「人を見て法  
を説け」ということわざがあると  
おり、使う言葉一つで話に角つた  
りこちらの気持ちを通じなかつた  
りします。相手を見て、時と場合  
によって言葉を選び、親しみを感  
じさせるような話し方、分りや  
すい言葉遣いをする事が大切です。  
また、方言と共通語の違いもあ  
ります。方言は地方の生活に密着  
した言葉で、日常親しい同士の会  
話では方言を使うのが自然ですが  
改まった公共的な場では、必要に  
応じて共通語も使えるようにして  
おけばいいでしょう。近頃は若い  
女性でも男のような話し方をする  
人も見うけられますが、女性特有  
の優しい言葉遣いも忘れたいとい  
ふものです。  
そして、人をあきさせずに、お  
もしろく話  
すことを心  
がければ、  
日常の会話  
もよりいっ  
そう楽しい  
ものになる  
ことではし  
ょう。



7

徳江館

国見の城と館

題字は秦助役



作成資料  
徳江村地籍図  
2,500分の1地形図  
佐藤茂雄氏案内による現地踏査

徳江館要図

徳江館は徳江観音堂の東脇・徳江字館に位置し、東側は阿武隈川の氾濫原を見おろす高さ七m程の川岸段丘、北側は西根台地を深く刻んだ沢田川で囲われている。本郭は八卷定男氏宅の周辺地で、水濠(幅三・六m、深さ一・八m)と土塁(幅七・二m、高さ二・四m)が最近まで残されていたが、現在は水濠の一部のみ残るにすぎない。本郭西側の水濠と土塁は南に延びていたと思われるが現存しない。南側は堀割で台地面と画され、大手口も南側に開かれており、濠は北側の沢田川から取水されていた。川岸段丘の下面は阿武隈川の旧川床で平坦となっており、その内側には「徳江村検地帳」にみ

られる六筆からなる館堀(幅二間半・長一一二間)がみられた。南側大手口の東手は戸(東)館(引地守氏宅)、堀割の西端には的場(渡辺次夫氏宅)なる城郭地名が残されている。館跡は東西一〇〇m、東側三五〇m、西側二〇〇mの台形状をなしており防備上の見地よりみれば東と北側は要害地形であるが、平坦地と地続きの西と南側に弱点をもった平山城である。

徳江館主については「但木家譜」によれば、鎌倉時代のはじめ但木伊賀守重信は伊達朝宗から徳江館を賜って住したとあり、但木氏の在館は室町時代はじめの長井移住時まで続いたといわれる。徳江氏の初出は建武二年(一三三五)伊達得(徳)江三郎藏人頼景が、鎌倉幕府討伐の元弘の乱に恩賞として建武政府から岩崎郡(現いわき市)に所領が与へられている。頼景は伊達の庶流で、鎌倉時代の末頃徳江郷に封じられるが、徳江館主となるのは但木氏移封後の室町初期以降のことであろう。天文五年(一五三六)六月、伊達種宗は徳江次郎左衛門に伊達領内の寺社領の霞についての取しきりを先例の通り許している。伊達氏の内紛天文の乱当時の徳江氏は、五郎兵衛、準人、山城などが確められるが、嫡流は徳江山城で、近世の初めに書かれた「徳江観音堂縁起」にも、伊達輝宗時代の徳江館主とあり、天文九年秋の大洪水によって荒廃した観音寺を永禄年間到现在地に移し、館を構えたことある。

「伊達世臣家譜」によれば、山城の子孫と思われる徳江市太郎高次があり、本姓は源氏とされている。南北朝時代の徳江氏は伊達一門の藤姓であり、同じ系譜の氏族とすればこの点の解明が必要であろう。館周辺一帯の地は古瓦類の出土する徳江庵寺または伊達朝宗の遺構地といわれ、徳江館の地割もこれら古代遺構の地割を踏襲している。参考文献 前号まで使用した文献

菊池利雄

心配ごと相談日

場所：役場二階相談室(東側入口から入り下り)  
時間：9時～12時  
こまったことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。

- 〔相談員〕  
11月25日(水) 遠藤 喜市、渋谷 愛子  
12月5日(土) 鈴木 正雄、長谷川キン  
12月15日(火) 佐野 市郎、玉手マルヨ

十 献血ありがとう

十月十六日の献血者 (敬称略)

- 〔国見電卓〕  
赤坂裕子 鈴木京子 斎藤シズ子  
八巻夏代 篠田国枝 紺野シマ子  
遠田フミ 大田ツネ 菊地恵子  
柿沼ミヨ 森 晴子 稲村けい子  
遠藤ミヨ子 紺野秋子 佐藤り子  
国分秀子 片平マエエ 田田和子  
原田睦子 須田悦子 高橋サチ子  
〔国見精機〕  
半沢俊博 宮崎庄次 中木勝男  
武田良子 渡辺 育 横山フク  
斎藤敏枝 近野キク 秦 英之  
秦 伸子  
〔清水製作所〕  
鍾水正春 佐藤幸夫 佐藤品子  
国島正勝 曳地すみえ 遠藤俊博  
〔国見農協〕  
小池幸吉 穴戸敏子 佐藤洋一  
吉田昭一 佐藤政子 矢内松雄  
室井市子 佐藤長一 斎藤トヨ  
古内賢蔵 佐久間喜美子  
〔国見ガス〕  
八巻千代子 高橋政味 谷口照子  
鈴木廣茂  
〔国見町役場〕  
佐久間靖明 遠藤喜正 武田 智  
羽根田孝司 菅野信朗 引地由則  
安田博三 後藤浩子  
〔一般協力〕  
佐久間治郎 朽木好秋 後藤忠一  
松浦惣一 森林喜助 高橋 力  
半沢 豊 廣居重夫 佐野周一  
佐沢恵美子 松浦正明 佐藤紀夫  
佐々木芳夫 伊東芳子 佐藤紀子  
安積トシエ 高橋勝美 大津森治  
吉田とき子 高橋藤吉 阿部洋一  
佐野昭一 大森忠治郎 高橋敬夫

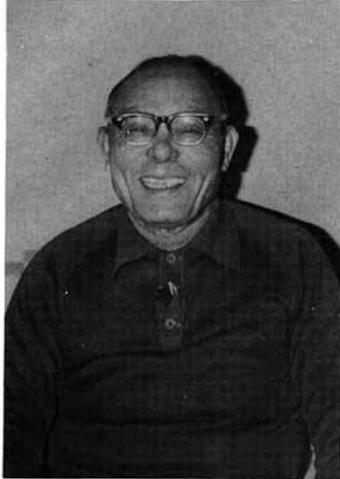


51

去る八月二十日、蔵王トンネル

から東北幹線の新車輛が初めて町内にお目見えした。十年間の歳月と二百億円をかけてようやく完成した新幹線の界内初の試運転の日のごとである。これより先、貝田地区では、「交渉が進展しなければレールに盛り込みをしまでも新幹線を走らせない」との声が高かった。これは蔵王トンネル掘削による濁水被害の補償問題に業をいやすることである。

貝田部落長の佐藤新二さんは、地区の水源対策委員長としてこの問題に取り組んで約七年、新幹線の試運転を前に、ようやく解決の



糸口を見出した。

この濁水問題は、昭和四十七年二月の蔵王トンネル石母田工区の掘削工事の着手により始まった。従来の水脈が破壊されたためその年の六月には石母田龍雲寺の湧水が断水、翌年三月には山根地区武士沢川上流の湧水が枯渴した。さらに、同年六月には貝田地区一帯の湧水が断水、あるいは減水する事態となった。これらの地区は従来から水資源が乏しく、湧水や天水に依存してきただけにその被害は深刻だった。簡易水道加入百十四戸、井戸水二十四戸、水田、果樹園約百ヘクタールに及ぶ水不足

を招く結果となった。

「当初は、果樹園消毒用水のごとで顔見知り同志が大ゲンカしたこともあった。降つてわいた災難に地区民の気が荒立っていたと思う。時間制で水を配分し急場をしのいだ。また、立石の大神にジャポナしめ縄を奉納して神だのみしたこともあった」と当時の苦勞を語る。

### 貝田地区水源対策委員長 佐藤新二さん

時間をかけ皆の意見をきいたつもり」と淡々と話してくる。前日返つたこともあったという。忍耐強い佐藤さんの力量が一番発揮されたのはこの時期だろう。

その後は、濁水前の水量の見方に地元と国鉄側との間に大きなずれがあった。この問題解決が大ききやまでであった。交渉の席ではしばしば激論が戦わされた。役場での交渉中、お茶を出にいった女子職員があまりの熱気に立ちすくむ光景もみられた。濃厚な佐藤さんも「この交渉はやりは絶対に譲れない」と必死の構えだつた。

昭和四十九年二月、ようやく国鉄側が各地区の出した水量、毎分二千六百リットルの数値を認めた。その結果、パイプラインでの送水量を差し引いた不足分は溜池などの施設で補うことになった。現在、石母田、山根地区ではその溜池工事が進んでいる。貝田地区でも建設のための調査測量が始まり、飲料水の方は大戸の新水源池からの試験給水の段階で入ってきた。

「やつとここまでこつてきたが今後は施設の維持管理の補償がある。まだまだこれから、それにしてもお役所相手の交渉は時間がかかる」。好きな植木いじりも当分奥さんまかせが続きそうである。

大正二年生まれ。貝田寺脇一〇

### 鉢植えの手入れ

冬は、鉢植えの花が、部屋に明るさを添えます。

シンビジウム、球根系のペゴニア、ポインセチアなどが人気があります。いずれも花の咲いている間の手入れのしかたによつて生育状態に差が生じます。

温度管理では、シンビジウムは五度以上の所に置き、急激な温度変化がないように気をつけ

ます。日中はガラス越しの日光をあて、夜は浴室などにおいて湿気を補つてやりなす。

ペゴニアは、十度から二十五度までの間で管理します。夜間は、ある程度照明のある所が好ましいのですが、乾燥しないよう

う気をつけて下さい。

ポインセチアは光を好むので、室内の日当たりのよい場所におき、最低気温は十二〜三度を下らないようにします。

水やりは、どの花の場合も、数日に一度、晴天の午前中にたっぷりとやります。

肥料は二、三週間に一度、鉢物用の液肥が粒状肥料と与えます。

冬は、花がとつても条件の厳しい時です。十分に手を入れ、美しい花を咲かせて下さい。



# 昭和五十七年成人者

## 来年一月十五日に成人式



来年一月十五日成人の日には町の成人式が行われます。対象者は、昭和三十六年四月一日から同三十七年四月一日までの間に生まれた方で、町内在住者となっております。ただし、希望すれば町外在住者でも参加できますので公民館に申し込みしてください。

二十六七両四一五六  
十月二十日現在の予定者は次のとおりです。記載もれ、誤字があればお知らせください。

- 藤田地区 50名
  - 高梨 真理子 半澤 ミドリ
  - 斎藤 正 二瓶 洋子
  - 秦 美津子 佐藤 敦也
  - 国井 典子 和泉 好広
  - 阿久津 全久 古川 江利子
  - 葺澤 典一 岡部 正子
  - 紺野 秀一 藤 節子
  - 佐久間 隆 大槻 絵里子
  - 大村 悦子 徳江 真弓
  - 東海林 二郎 大波 春努
  - 吉田 孝文 我妻 美裕
  - 吉田 立美 武田 正裕
  - 蓬田 惠美 松野 朱美
  - 鈴木 浩美 藤田 一則

- 小坂地区 29名
  - 横山 多鶴子 佐藤 嘉浩
  - 佐藤 良子 佐藤 幸子
  - 小坂 得子 安藤 妙子
  - 赤坂 清 阿部 由美子
  - 仲野 マユミ 仲野 美佐子
  - 黒辺 芳浩 遠藤 紀子
  - 黒野 純子 阿部 春男
  - 紺野 静子 阿部 初枝
  - 山田 悦子 高野 正之
  - 高橋 敏修 遠藤 一浩
  - 高橋 修 佐藤 正光
  - 鴨田 千香子 菅野 栄子

- 津田 弘子
- 森江野地区 35名
  - 遠藤 伸一 穴戸 勝好
  - 三輪 秀雄 佐久間 浩美
  - 佐藤 文敏 佐久間 久美子
  - 佐久間 仁 武田 義信
  - 武田 正男 吉藤 弘美
  - 武田 初子 佐藤 淳子
  - 佐藤 恵子 佐藤 弘明
  - 寺島 勇 寺島 万里
  - 八巻 優子 佐藤 正勝
  - 穴戸 仁志 佐久間 成隆
  - 村上 徳彦 村上 光浩
  - 横山 利男 藤田 広光
  - 実沢 光夫 佐藤 元日
  - 菊地 喜美子 高橋 幸夫
  - 菊地 洋一 佐久間 えり子
  - 八巻 正男 岩崎 紀子
  - 菊地 奈穂美 菊地 さと子
  - 佐藤 祐子 菊地 さと子

- 大木戸地区 16名
  - 後藤 みつ子 岡田 明美
  - 大沼 剛司 渋谷 美
  - 沢 裕征 渋谷 浩美
  - 桜 弘正 後藤 克好
  - 遠藤 正 渡辺 貴美代
  - 八島 早苗 渡辺 悦子
  - 阿部 博 佐藤 悦子
  - 吉川 光子 菊池 美枝子
  - 村上 洋子 遠藤 良重

- 大枝地区 6名
  - 荒川 明弘 吉田 ルリ子
  - 松浦 秋男 菊池 憲克
  - 井砂 秀明 鈴木 恭子

合計136名(男67名女69名)

### 善意の窓

町社会福祉協議会に

◆山本テルさんから 三万円

◆東北中学校生徒会から

一文化祭でのバザー益金一  
六万八千六百二十五円



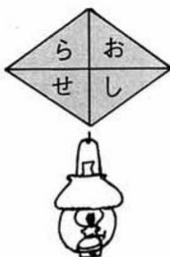
生徒会を代表して益金を  
佐藤町長に手渡す佐藤衛生徒会長

安全運転してますか



福島県内での交通事故は全国最悪のペースで増えていることは新聞等でご存知でしょうが、県内のどこかでという感じが、町内での交通事故発生件数は以外に少ないと思っっている方が多いのではありませんか。

九月末現在、十八件、二十二名の負傷者を出しています。えんそんなにと思っっている人、この数字はまだまだ増える危険性があります。町内の車の保有台数は五千九百五十四台、実に二人に一台の割合で保有しているのが現実です。私たちの日常生活は常に交通事故の危険にさらされているといっても過言ではありません。一歩間違えばとり返しのつかないことにこれが出してきますらあなたは避けられませんか。ゆとりある安全運転をお願いします。交通事故絶滅はみんなの願いです。



働きながら技能士になろう！

一級・二級技能士訓練課程通信  
制訓練受講のおすすめ

項目	一級	二級
機械加工科	機械加工科、仕上科、製かん科	機械加工科、仕上科、製かん科
板金科	板金科、保管科	板金科、保管科
配管科	建築科、左官科	建築科、左官科
家具木工科	家具木工科、建築塗装科、洋服科、広告美術科とび科	家具木工科、建築塗装科、洋服科、広告美術科とび科
その他	ほか十七科	ほか十七科

※くわしいことは、左記へお問い合わせ下さい。  
雇用促進事業団  
福島総合高等職業訓練校  
〒960 福島市三河北町七番一四号  
電話〇二四五 三〇一三七一六

阿津賀志山防塁  
史跡指定記念行事

- ◆阿津賀志山防塁に関する資料写真の展示
    - 11月26日～12月2日まで (9:00～17:00)
    - 公民館ホール
  - ◆記念講演会
    - 演題 「阿津賀志山防塁と文治五年奥州合戦」
    - 講師 東北大学教養部助教 入間田 宣夫
    - 日時 11月29日(日)午前10時 公民館大ホールで
- ※いずれも入場無料  
ぜひおでかけください

福島県の最低賃金が  
改定されました

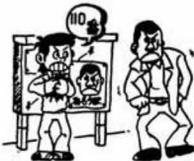
福島県最低賃金(地域最賃)について昭和五十六年十月二十四日から左記のように改定されました。  
この最低賃金は福島県内の事業場で使用されるすべての労働者に適用されますので、使用者は労働者に対してこの最低賃金額以上の賃金を支払わなければなりません。(最低賃金法第五条)

最低賃金	除外賃金
一日(七四八円)	稼働手当
一時間(四四円)	通勤手当
賃金が時間によつて異なる場合	家族手当

※最低賃金についてのご照会、ご相談は左記へご連絡下さい。  
○福島労働基準局賃金課  
〒九六〇  
電話三〇五三四一、二二一(大代表)

指名手配犯人の  
逮捕に協力を

アツ、この顔だ  
すぐ  
一一〇番



福島県柔折警察署

届出を忘れていませんか

一定面積以上の土地取引

国土利用計画法では、適正な国土利用のため、一定面積以上の土地について売買などの取引する場合は事前に届出が義務づけられています。

- ◆届出の必要な土地取引面積
  - (A)市街化区域(二〇、〇〇㎡以上)
  - (B)都市計画区域(ハを除く)
    - 五、〇〇〇㎡以上
    - ハ都市計画以外の区域
      - 一〇、〇〇〇㎡以上

◆届出から契約まで  
契約をしようとするときは、取引の当事者(売買の場合であれば売主と買主)は、取引の予定価格や利用目的を書いた知事あての届出書を、契約を結ぶ六週間前までに町役場に届け出てください。

※詳しくは、町企画課に照会ください。届出用紙も企画課にあります。

はがきで「消火器」を当てよう

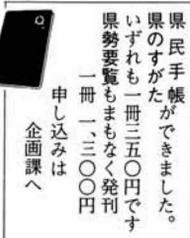
昭和56年秋季全国火災予防運動の標語はなんでしょう？

◆あて先 千九六〇 福島市中町五一二二

◆しめきり 十二月五日 福島県消防協会火災予防懸賞係

◆賞品 家庭用消火器(百名に)

◆その他 消防関係者のご遠慮ください。





▲ランナーは孤独です

▶ひとつ、ヤッタルゼ(スタート)

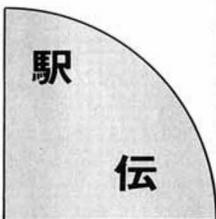


▼どうです この中年パワー



国見町公民館  
電 2676  
話 和4156

▼最後まで全力



◀ 展示会場

▼きまっていますネ



▲力が入ります (詩吟)



▲私もひとひねり

## 第5回 町内一周駅伝競走大会成績

(一般の部)

◎優勝

小坂チーム

1時間22分03秒

瀬戸良夫、安孫子透、黒田武、鴨田精一、安孫子正、高野正喜、山田一郎、原田武重、後藤与志男、熊坂哲夫

◎準優勝

石母田Aチーム

1時間22分08秒

佐藤武徳、矢戸孝三、菊地忠良、市川忠明、佐藤寺雄、菊地吉治、菊地喜伸、佐藤秀世、佐藤政則、菊地克哉

◎第三位

滝川チーム

1時間24分37秒

佐藤隆、野村伸一、斎藤松雄、中條栄、須田善治、青木功、斎藤洋二、坂本哲夫、小林平三、高村義孝

(県北中)

◎優勝

Bチーム

1時間19分34秒

高野輝男、奥村則男、松浦弘幸、佐藤敏行、佐久間泉、神田哲也、山田徹、横山勉、稲村貴史、佐藤公彦

◎準優勝

Cチーム

1時間19分57秒

佐久間光雄、高橋忠信、高橋浩美、仲野栄輝、石川正浩、遠藤和夫、桃井喜浩、徳江健吉、菊地幸治、斎藤盛一

◎第三位

Aチーム

1時間27分09秒

高原透、岩崎直樹、沢口治三、高橋裕毅、斎藤建也、後藤広、佐藤修二、阿部裕、由井淳也、佐藤昭保

区間賞

(一般)

1区	佐藤武徳 (石母田A)	12分16秒
2区	安孫子透 (小坂)	10分39秒
3区	黒田武 (小坂)	8分17秒
4区	鈴木耕治 (大枝A)	4分27秒
5区	渋谷節男 (大木戸A)	5分51秒
6区	高橋鉄男 (藤田)	6分43秒
7区	斎藤洋二 (滝川)	9分06秒
8区	鈴木富男 (大枝B)	9分06秒
9区	佐藤秀世 (石母田A)	6分01秒
9区	佐藤政則 (石母田A)	6分48秒
10区	菊池克哉 (石母田A)	9分02秒
(中学生)		
1区	佐久間光雄 (C)	11分48秒
2区	奥山 則雄 (B)	10分56秒
3区	高橋 浩美 (C)	8分42秒
4区	佐藤 敏行 (B)	4分18秒
5区	石川 正浩 (C)	5分48秒
6区	遠藤 和夫 (C)	6分34秒
7区	山田 徹 (B)	9分13秒
8区	横山 勉 (B)	5分36秒
9区	稲村 貴史 (B)	6分24秒
10区	佐藤 公彦 (B)	9分04秒



## 秋に想う

「暮れゆく秋の日よ、金色の枯葉散る」この季節になると私はいつも今生きていることの有難さを感じてみているのです。

急速に多様化する生活環境の中で生きていくための対処のしかたと、その選択の難しさを考えるのと、人間の弱さに思い至るのです。

しかし、太陽は輝き、秋去らば冬来たり、生あれば死あり、一糸乱れず、流れる水のように過ぎ去ってゆく大自然を想えば、その中に身をゆだねて生かされている人間

のなすべきことを静かに考えてみるのです。与えられた生命のいかに尊いものかを思えば、心を尽くし身を労して、人間に与えられたこの機能と能力を最大限に生かすことが、せめてもの感謝の印であろうと思うのです。

今や世界の見地からも、教育は行き届き、生活水準も高い位置にあるといわれる現在の日本……。

そこに生きる新しい婦人のあり方も、まじで、良き妻として、良き妻、良き母として生きていることは、主婦として第一条件ですが、これからの女性は、まず、自分の人生を考え、妻の役割、母の役割をその中におり込みながら、幅広く

い生涯を開いて行くことであろうと思うのです。

社会教育活動は、時代の流れに乗って盛んであり、多くの人の進歩よりどころとなつてはいます。生涯教育の重要性が叫ばれている中で、町内の多くの皆さんが学習に参加していらつしやいますが、学習を通して、いかに自分の心の中に、そして生活の中に取り入れるか……これが本来の学ぶ目的であろうと思うのです。人生いかに生きるべきかをよく考え、社会の一員としての存在感や充実感を抱き得る喜びを、学びの場として、一歩でも前進したいと願つております。

中央婦人学級委員長 亀岡ツヤ

## あづかし俳句会

十月二十四日

- \* 樵の実ほ拾う人なく大干寺
- \* 朝酒に酔うこともあり秋祭
- \* 亡妻のすがたを胸に辛煮会
- \* 風のまよひに生くる外なし糸芒
- \* 蛙番屋屋根に石置く夜寒の灯
- \* 秋の蝶行く先あるがごとく急ぐ
- \* 行く秋やごみ笑く煙燻りぬ
- \* 赤とんぼ無心にとまるベンの前
- \* カギツ子の社宅にひとつ秋の灯
- \* 忙たりし過去よ気付けば木の葉髪
- \* 栗おこわ炊いて届けば秋祭
- \* 父母の逝きて戻らぬ障子張る

- 奥山 甲二
- 藤田 勝衛
- 加藤 痴仏
- 奥山 雨田
- 阿部 亨司
- 佐久間 山月
- 左藤 國樞
- 高橋 涌水
- 羽賀 えい
- 赤間 はる子
- 高橋 仙子
- 森田 栄子

## 果実酒をつくってみませんか

### コンクールで二人入賞

十月四日、果実酒友の会が主催した手づくり果実酒コンクールで町から二人の方が入賞した。約百五十人が合わせて二百六十五点を出品したうち、風味、管理などの点で優秀と認められたもの。

この方は、県青年会館長賞受賞の穴戸なみ子さん（石母田）と黒トミ子さん（泉田）である。お二人とも農協婦人部で活躍され、日頃、身近な材料で果実酒や手づくりお菓子、山菜ご飯など生活に工夫をこらした日常にうるおいをもたせている。どちらのご主人も酒好きではないそうだがこの奥山野の材料にも恵まれた町、こ

様手づくりの酒だけは手放せないとか。健康増進と家庭円満の秘酒である。穴戸さんのブラム酒、目黒さんの梅酒のきき酒の結果は、その効用たちまち表れ、帰りの車運転不能となった。

果実酒づくりは特に難しいものではなく、熟す手前の酸味のある材料を使い糖分は押えめにするのがコツとか。果物の里でもあり、山野の材料にも恵まれた町、こ



▲穴戸なみ子さん  
▼目黒トミ子さん



## 音楽に親しもう

### 町小中音楽会開催

十一月二日、町内小中学校合同の音楽会が藤田小学校屋内体育館で開かれた。合唱、合奏、吹奏楽と各学校の代表者が合わせて十三曲目を演奏した。いずれも日頃の練習成果を十分に発揮、肌寒さを感じさせる天候も会場ばかりは熱気があふれていた。最後に、講師の県教育センター指導主事の安部哲夫さんから「楽器をいづれもそばにおいて大きな音を出さないように、楽器がなければ大きな声で歌って欲しい。心のうごきを音楽の中に伸び伸びと表わし、そして、楽しんでみさい」とのお話があった。



▲熱気あふれる音楽会

## 戸籍の窓口

(10月受付分)

### 出生おめでとうございます

落 南東三原根谷取  
部 町山田  
宮源第石山騎鳥  
者 秀良方芳茂男  
護 信博和勝 朝正  
保田村藤元地内巻藤  
武木佐菊大八速

名 利子里美々々ふゆ  
子 秀菜由育奈しま

### ご結婚おめでとうございます

所 部 前住 所 部  
落 山福宮小石具 落 山福宮小石具  
島治田藤地藤藤田藤川田井間地地林橋浦藤藤木地  
八丹武佐菊後佐吉佐市嶋酒佐菊若若高松齋佐佐菊

美子 妻子 秋子 男子 妻子 一子 雄子 妻子 雄子 妻子 勝子 妻子 美智 正美 幹 幸 道 義 貴 光 及 厚 敏 邦 富 利 順 幸 昭 孝 貞 良 札 由 美

### お祝い申し上げます

北北寺東中 崎江明母田 山徳光石泉 年 76 63 69 65 81  
名 作ツ世吉 島卷浦田野 八八松藤仲

## 人口と世帯

項目	11月1日現在 (前月比)	10月中の	うごき
男	5,885人 (+6)	転入	36人
女	6,249人 (+6)	転出	26人
計	12,134人 (+12)	出生	7人
世帯数	2,824戸 (-1)	死亡	5人

## 編集日記

○ことしは銘秋という言葉もなく一足とびに冬が訪れた感がある。野分けの風雨にたたかれた果樹類に続いて、頼みしていた水稲までも今年作を頓挫気配である。ましてやこの寒さ……山の斜面に残る雪が消えもといで白く輝いているのをみると、今年の冬も長くなりそうである。

○庭の落葉樹も、急に枯れたせいのか、カサカサと乾ききつていつものしつとりとした黄葉がみられないのは残念なことである。「青山に雪が降ると冬日照」であるという。古来の教えに希望をつないで、せめて冬だけでもおだやかにすごしたい。